
第 1 日 11 月 10 日 (金) 13:00~15:30

午後の部会 (13:00~15:30)

部会 1 「国際河川を巡る協調と対立」

司会 星野 昌裕 (南山大学)

報告 山田 哲也 (南山大学)

「国際河川の規範構造—航行利用と非航行利用」

地田 徹朗 (名古屋外国語大学)

「日本によるアラル海救済支援の展開とその教訓」

ダルウィッシュ・ホサム (アジア経済研究所)

「ナイル川の水資源をめぐる政治状況の再編における非流域国の役割」

討論 岩下 明裕 (北海道大学)

部会 2 「決済制度の政治経済学—デジタル通貨の意義の現状と展望」

司会 田所 昌幸 (国際大学)

報告 長谷川 将規 (湘南工科大学)

「人民元の国際化とデジタル化—地政学的な含意」

江頭 進 (小樽商科大学)

「国際金融秩序における仮想通貨のインパクトのシミュレーションモデル」

川波 竜三 (大阪国際大学)

「暗号資産市場の動揺と主権国家」

討論 鈴木 一人 (東京大学)

相良 祥之 (アジア・パシフィック・イニシアティブ)

部会 3 「COVID-19 と国際労働移動」

司会 首藤 もと子 (筑波大学)

報告 岡部 みどり (上智大学)

「移民外交のパズル—国家、EU、グローバル政治空間における移民管理の相互関係： COVID-19、ウクライナ危機の影響を中心に」

小川 玲子 (千葉大学)

「ケア労働者の国際移動と COVID-19」

手塚 沙織 (南山大学)

「パンデミックにおける国境管理をめぐるアメリカ政治」

討論 明石 純一 (筑波大学)

小松 志朗 (山梨大学)

部会 4 「自由論題—国際秩序の形成、含意、変容—歴史と現在」

司会・討論 篠原 初枝 (早稲田大学)

報告 服部 聡 (大阪大学)

「国際連盟による経済秩序の形成」

舒 旻（早稲田大学）

「『自由で開かれた国際秩序』と東アジア——ボーダーランドの視点から」

高橋 知子（京都大学）

「多数派から離れること——国連における中国とグローバル・サウスの事例から」

討論 大平 剛（北九州市立大学）

分科会セッション A （15:45～17:45）別掲

第2日 11月11日（土）9:30～12:00 16:00～18:45（共通論題）

午前の部会（9:30～12:00）

部会5 「理論にとっての地域、地域にとっての理論」

司会 溝口 修平（法政大学）

報告 玉置 敦彦（中央大学）

「同盟論から見るウクライナ戦争」

政所 大輔（北九州市立大学）

“Justifying Intervention: Russian Invasion of Ukraine and Legitimacy Claims”

中村 長史（東京大学）

「『正しい終戦』論の類型化——ロシア・ウクライナ戦争とユス・ポスト・ベルム」

討論 山添 博史（防衛研究所）

加藤 美保子（広島市立大学）

部会6 「国際機構と国際政治」

司会 植木 安弘（上智大学）

報告 都築 正泰（上智大学）

「ウクライナ危機下の国連安保理改革——アメリカの『積極的』姿勢はどのような政治力学を生むのか」

和田 洋典（青山学院大学）

「競合レジームと主要国際経済機関のつながり——正統性源泉として」

真嶋 麻子（日本大学）

「開発支援のローカライゼーションからみる国際機構の役割」

討論 竹内 俊隆（京都外国語大学）

勝間 靖（早稲田大学）

部会7 「キューバをめぐる国際政治」

司会 宮地 隆廣（東京大学）

報告 ロメロ・イサミ（帯広畜産大学）

「池田政権とキューバ革命——砂糖と米国の狭間で」

- 大澤 傑 (愛知学院大学)
「キューバにおける基地政治の変容」
小池 康弘 (愛知県立大学)
「ポスト・カストロ時代におけるキューバの『革命外交』」
討論 松本 八重子 (亜細亜大学)
森口 舞 (名城大学)
上村 直樹 (南山大学)

部会 8 「『現実主義』の国際比較」

- 司会 中本 義彦 (静岡大学)
報告 島村 直幸 (杏林大学)
「アメリカのリアリズム—古典的リアリズムからネオクラシカル・リアリズムまで」
張 帆 (財団法人勤務)
「改革開放以降の中国における『現実主義』の展開—日中比較の視点からの考察」
大山 貴稔 (九州工業大学)
「醸成された『現実主義』—戦後日本における重層的人脈の生成と展開」
討論 村田 晃嗣 (同志社大学)
岡垣 知子 (獨協大学)

部会 9 「ウクライナ戦争の多角的検討」

- 司会 吉川 元 (広島市立大学)
報告 兵頭 慎治 (防衛研究所)
「ウクライナ戦争とロシアの将来」
田中 極子 (東洋英和女学院大学)
「ロシアによるウクライナ侵攻から見る国連の機能」
益尾 知佐子 (九州大学)
「中国の内政とロシア=ウクライナ戦争」
討論 佐渡 紀子 (広島修道大学)
小森 宏美 (早稲田大学)

部会 10 日韓合同部会 “Nuclear Weapons and the Foreign and Security Policies of Japan and South Korea” (英語で実施)

Chair: Keisuke Iida (JAIR President, University of Tokyo)

Speakers:

- KURITA Masahiro (National Institute for Defense Studies)
“Revisiting the Evolution of Nuclear Strategies in South Asia and Its Theoretical Implications”
JEONG Hanbeom (Korea National Defense University)
“Korea-US Nuclear Consultative Group and NATO Nuclear Planning Group”
KIM Inwook (Sungkyunkwan University)
“Theorizing the Unthinkable: Nuclear Arms Control between the US and

North Korea”

Discussants:

MICHISHITA Narushige (National Graduate Institute for Policy Studies)

SUK Juhee (Northeast Asia History Foundation)

分科会セッション B (12:15~13:45) 別掲

分科会セッション C (14:00~15:30) 別掲

総会 (15:30~16:00)

【共通論題】 「イラク戦争から 20 年——日本の国際政治学はどう変わったか」

(ラウンドテーブル方式) (16:00~18:45)

司会 酒井 啓子 (千葉大学)

報告 三牧 聖子 (同志社大学)

「『テロとの戦い』の帰結と向き合うアメリカ、向き合えないアメリカ」

錦田 愛子 (慶應義塾大学)

「震源地としての中東——イスラーム主義とテロとの闘い」

大矢根 聡 (同志社大学)

「アメリカ IR の認識論と日本の IR の現象論？」

梅本 哲也 (静岡県立大学)

「過渡期としてのイラク戦争——国際秩序の変動と日本の安全保障」

藤原 帰一 (東京大学)

「イラク戦争が国際政治に残したもの」

懇親会 (19:00~20:30)

第 3 日 11 月 12 日 (日) 14:00~16:30

分科会セッション D (09:30~11:00) 別掲

分科会セッション E (11:15~12:55) 別掲

部会 11 「『核のタブー』と国際関係」

*非登壇共著者

司会 山田 康博 (広島市立大学)

報告 松村 尚子 (神戸大学)、*多湖淳 (早稲田大学)、*Joseph M. Grieco (Duke University)

“Policy Cues and Public Support for Nuclear Sharing: Evidence from a Survey Experiment in Japan”

石川 卓 (防衛大学校)

「核のタブーか、アイロニーか？——揺さぶられる核秩序の中で」

梅原 季哉 (広島市立大学)

「非核三原則という歴史的逆説——規範論からのアプローチ」

討論 足立 研幾（立命館大学）
遠藤 誠治（成蹊大学）

部会 12 「国際関係史研究と『社会的なもの』」

司会・討論 大津留（北川） 智恵子（関西大学）

報告 溝口 聡（関西外国語大学）

「ハワイの沖縄系コミュニティと沖縄帰属問題——移民史と外交史の関係性の観点から」

小野坂 元（日本国際政治学会会員）

「疎遠な国際機関を協力関係に埋め込む国際 NGO——日中戦争期の ILO、中国 YWCA、国際労働組合連盟の事例から」

鶴見 太郎（東京大学）

「あるロシア・ユダヤ人のなかの国際関係——D・S・パスマニク『クリミアにおける革命期』を読む」

討論 小林 知子（福岡教育大学）

部会 13 “Enhancing Australia-Japan Cooperation: New Approaches to Minilateralism” (英語で実施)

司会・討論 畠山 京子（新潟県立大学）

報告 David Envall (Australian National University)

“Australia, Japan and Minilateralism in the Economic-Security Nexus”

Thomas Wilkins (The University of Sydney)

“Australia, Japan and the Revival of Indo-Pacific Minilateralism”

廣野美和（立命館大学）

“China-Japan-South Korea Minilateralism”

討論 佐竹 知彦（青山学院大学）

部会 14 「グローバル・サウス、その意味、共通点、多様性」

司会 小林 昭菜（多摩大学）

報告 武内 進一（東京外国語大学）

「アフリカが求める国際秩序」

浦部 浩之（獨協大学）

「ラテンアメリカにおける国際秩序と覇権主義への対抗——地域間外交と社会運動」

宇山 智彦（北海道大学）

「『ポストソヴィエト』と『グローバル・サウス』の狭間の中央アジア——地理的概念の政治的機能」

討論 竹中 千春（立教大学）

白戸 圭一（立命館大学）

部会 15 「いま戦間期が問いかけるもの」（市民公開講座を兼ねる）

司会 北村 厚（神戸学院大学）

報告 細川 真由（京都大学）

「戦間期ヨーロッパ国際秩序の形成とフランス外交——国際連盟をめぐるフランス政府の認識に着目して」

藤山 一樹（大阪大学）

「イギリスの対独宥和・再考—二人のチェンバレンと戦間期ヨーロッパ秩序」

樋口 真魚（成蹊大学）

「日本外交におけるワシントン体制と国際連盟体制」

討論 田嶋 信雄（成城大学）